

# 私たちにできること

大胡紀子 横浜市立中川中学校

実践教科：学活・6時間

対象学年：1学年 対象人数：36名（学年210名）

## （1）実践の目的

<目的>

『私たちにできることは一体何だろうか』もう一度生徒自身が考えること

<目的設定の理由>

「donationは必ずしも彼らを助けない」・・・これは私自身がこの研修に参加して最も心に残った一言である。ジンバブエの職業訓練校で出会った青年海外協力隊の方から聞いた言葉だ。訓練校ではたくさんの生徒が洋裁の勉強をしていたが、聞けばほとんどの生徒は卒業後この技術を生かすような職業には就けないそうだ。その理由の一つは、他国から洋服の寄付があること。つまり寄付により洋服は手に入るため彼らの技術も必然的に需要がなくなる。だから「donationは必ずしも彼らを助けない」のだ。私は大きな衝撃を受け、帰国後もこの言葉は強烈に印象に残っている。私には今まで見えていなかったものがあった。募金をすること、寄付をすることは良いことには変わらないが、そのこと自体に疑問を持つことも今まで無かった。またその先の彼らの生活を考えること、もっと深くその国のことを考えることが欠けていたと気付かされた。肝心なのは「知ること」なんだと改めて思った瞬間だった。

1年4組36名の生徒を対象に実施した出発前のアンケートでは「アフリカ（ジンバブエ）＝貧しい国＝助けてあげなくてはいけない存在」と考えている生徒は多かった。そしてその手段は「募金」と答える。学校全体で取り組んでいる人権作文でも国際協力について触れる生徒は大勢いるが、ほぼ全員が最後の締めくくりに「私たちにできることは募金です。助けるために1円でもいいから募金していきたいです。」と書く。その答に迷いや疑問は感じられない。本当にそうなのだろうか、生徒が疑問を持つような授業を展開していきたい。「できることが何か」回答を出すことが目的ではなく、あくまでも今までの自分達の考えに偏りが無かったか知識が浅くなかったか疑問を持つことが目的であり、そして事実を「知ること」から国際理解は始まるということに気付かせたい。

## （2）授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 (出発前事前準備として) ねらい:生徒が持つアフリカおよびジンバブエについてのイメージを知ること。	1年4組36名の生徒に、アフリカについて自分が持っているイメージや、聞いてみたいことや知りたいこと、また自分たちと同じだろうと予想することや逆に違うだろうと予想すること、などについてアンケート実施した。	アンケート用紙
2 限目 テーマ:「外から見たジンバブエ」	<主に講義形式> (1) ワイド世界地図を掲示しながら、	1. ワイド世界地図 2. (参考文献)「今がわか

<p>ねらい:ジンバブエについて基本的な知識を与えること</p>	<p>ジンバブエの面積、人口、平均寿命、インターネット普及率、失業率、大学進学率についてのデータを提示し補足説明。生徒はそれらをワークシートに記入。全て日本のデータと比べながら行う。</p> <p>各自、ワークシートに感想を記入。これは今後の授業でジンバブエについてより深く知ったときどんなふうにイメージが変わっていくのか知るための材料とする。</p>	<p>る時代がわかる世界地図」</p> <p>3. チェルトンボ高校で撮った写真</p> <p>4. ワークシート</p>
<p>3 限目</p> <p>テーマ:「内からみたジンバブエ」</p> <p>ねらい:2 限目は外から見たジンバブエつまり書物からでも得られる知識を中心に講義したが、今回は実際に見聞してきたことを中心に、ジンバブエの内面をもっと知ることがを目的とする。それにより前回の授業と比べてジンバブエのイメージがどう変わったか考えること。</p>	<p>&lt;グループ対抗クイズ形式&gt;</p> <p>(1) ジンバブエについてのクイズをグループ対抗○×クイズで8問出題。クイズはジンバブエについて「実際に行ってみてから分かったこと」や「生徒が持っているイメージと異なるもの、意外性のあるもの」をあえて厳選して出題する。</p> <p>(2) 回答するときは、根拠となる写真やビデオを提示する。またそこから話を膨らませて興味を持たせる。</p> <p>(3) ワークシートに感想記入。</p>	<p>1. ジンバブエで撮った写真数枚</p> <p>2. ジンバブエで撮ったビデオ (チェルトンボ高校でこども達がダンスをしている様子)</p> <p>3. ジンバブエの紙幣</p> <p>4. ワークシート</p>
<p>4 限目</p> <p>テーマ:「私たちにできることは一体何だろうか」</p> <p>ねらい:チェルトンボ高校の生徒にとつたアンケート結果と自分の考えを比べることで、細</p>	<p>&lt;学年集会&gt;</p> <p>(1) チェルトンボ高校実践授業の様子を視聴して、導入として興味を持たせる。</p> <p>(2) 1年4組以外の生徒もいるのでジンバブエについて基本的なことを話す。</p> <p>(3) 「今、ほしいものは何か?」また「大</p>	<p>1. ジンバブエで撮った写真数枚</p> <p>2. ジンバブエで撮ったビデオ (チェルトンボ高校での実践授業)</p> <p>3. (参考文献)「今がわかる時代がわかる世界</p>

<p>かな価値観や考え方の違いを感じることを。</p> <p>世界全体にも目を向け、自分たちの環境を振り返ったうえで、何かできることがあったとしたら、、、と考える。募金なのだろうか、疑問を投げかける。</p>	<p>切なもの何か？」考えさせ、人数を数える。チェルトンボ高校での結果と比べてみる。</p> <p>(4) ジンバブエのみならず世界の現状について話をする。3択で3問のクイズに答えてもらう。世界全体に目を向けてもらうことが目的。</p> <p>(5) 私たちにできることは何だろうか、疑問を投げかける。本当に募金なのだろうか。</p> <p>(6) ワークシートに感想記入。</p>	<p>地図」</p> <p>4. ワークシート</p>
<p>5 限目～6 限目</p> <p>テーマ：「ジンバブエの子どもと話そう」</p> <p>ねらい:チェルトンボ高校の生徒達に書いてもらった手紙(質問の回答)を生徒に返却し、より身近にジンバブエを感じることを。</p>	<p>(1) チェルトンボ高校で質問用紙に回答を記入しているビデオを視聴。現実味を持たせ、興味を持たせる。</p> <p>(2) 一人一人に質問用紙を返却。</p> <p>(3) 英和辞書を使用し、回答を和訳する。</p> <p>(4) ジンバブエに手紙を書こう」と題して、逆にジンバブエの生徒が記入した日本への質問について、英語で回答を記入。</p>	<p>1. 質問用紙(出発前あらかじめ生徒に記入してもらった質問用紙を英訳してジンバブエに持って行き、回答を書いてもらった物)</p> <p>2. ビデオ(チェルトンボ高校の生徒達が実際に質問用紙に回答を記入している様子)</p>

### <1時限目>

※アンケート結果は以下の通り。(一部を抜粋)

① 「アフリカ」と聞いてイメージするもの(こと)は？

- ・貧しくかわいそうな国。
- ・広い大地、たくさんの動物。砂漠(←ちなみに「砂漠」は最も多かった答)
- ・外で授業をしていたり、餓死したしする人がたくさんいる。病気の人がたくさんいる。
- ・貧しくて学校にはあまり行けない。食べるものが少なくて痩せ細った人がたくさんいる。
- ・洋服は一枚の長い布をまいているイメージ。
- ・ビルはなくて、車も走っていない。
- ・病弱、奴隷。

② ジンバブエの中学生に聞いてみたいことは？(一人一つ以上挙げてもらった)

- ・生きるのがつらいと思ったことはありますか？
- ・いつもどんな生活を送っているのか？
- ・楽しいことはどういうことですか？
- ・1年4組の写真を見てどう思いますか？

- ・日本を知っていますか？知っていたらどんなイメージですか？
- ・普段はどのような食べ物を食べているのか？
- ・野望はありますか？
- ・ほしいものはありますか？あるとしたらそれは何ですか？
- ・学校はどんなところにありますか？
- ・一番の宝物は何ですか？
- ・ご飯はちゃんと食べられますか？
- ・通学時間はどれくらいですか？
- ・何に困っていますか？日本の人にやって欲しいことは何ですか？

③ ジンバブエの中学生と自分達（日本の中学生）を比べたとき、「きっと違うだろうな」と思うことはなんですか？

- ・勉強する環境（校舎、教科書、机、椅子など）
- ・食事も1日3回とかはないと思う。チャラチャラしていないと思う。
- ・足の速さ。食べ物。遊び方。
- ・いい教育を受けることができない。みんな心が広い。
- ・贅沢じゃないと思う。みんな、けんかとかしてる暇はないと思う。日本の子どもと違ってみんな仲良しだと思う。
- ・勉強の量。勉強に対する意欲
- ・制服とかジャージとか日本にはあるけど、アフリカには無いんじゃないかな。よくテレビで見るけど、アフリカの人たちは文具とかあまりないんじゃないかな。私たちは普通にペンとか筆箱とか買ってるけど。
- ・家族を何よりも一番に思っていそう。
- ・うちらと違って喧嘩とか愚痴とか無いんだろうな。喧嘩しても一日ですぐ仲直りしたり。。。
- ・学校生活を楽しく送っていると思う。

④ ③と逆に「きっと同じだろうな」と思うことはなんですか？

（これについてはかなり考え込んでいる様子だった。思いつかないという生徒も多く、何も書かなかった生徒が多かった。）

- ・学校が楽しいってこと。
- ・笑顔。
- ・友達とのかかわり合い。
- ・心を持っていること。何かを大切にしたりする心。
- ・楽しい事は楽しいって思ったり、どんなに暮らしが大変でもジンバブエの中学生たちと自分達が遊べば普通に遊べると思うから、心（？）気持ち（？）は一緒。
- ・笑えること。
- ・遊ぶこと。
- ・ない。

### ※生徒の様子

とても熱心にまた楽しそうにアンケートを記入していた。時間は15分ほど設けたがもっと時間が欲しいという声も多かった。聞きたいことや疑問に思うことはたくさんあるようで、特に②についてはかなりたくさんの質問を記入していた。

### ※所感、今後の課題

生徒の興味関心を無駄にすることのないよう、見聞してきたことをできるだけ事実即して伝えたいと思った。生徒が記入した質問に対してはこちらで英訳し、ジンバブエの生徒に直筆で回答を書いてもらったものを今後の授業で再び生徒一人一人に返却する。また④のアンケート結果にもあるように「同じこと」はなかなか見つからない様子だったので、今後の授業を通して「同じこと」にも生徒が気づき、それによりジンバブエに対して「現実にあるのか分からないほどの遠い国」ではなくもっと親近感を持てるような授業を展開していきたい。

### < 2時限目 >

#### ※生徒が書いた授業の感想は以下の通り。(一部を抜粋)

- ・平均寿命が37才ということには本当にびっくりした。しかももっと平均寿命が低い国があるなんて想像もできなかった。
- ・教室に電気がなくてそれでも勉強していてえらいなと思いました。私だったら電気がついてなかったら勉強しません。私が使っている机とか椅子とか本当に大事にしないといけないんだと、とっても感心しました。
- ・ジンバブエの人達の写真を見ると、想像していたより明るくてびっくりした。今の日本とジンバブエは全然ちがくて改めて日本は恵まれているなと思った。
- ・日本では勉強できる環境があるのに勉強しないのは、ジンバブエの人達に失礼だと思った。僕たちは贅沢だと思った。
- ・意外に楽しそうな国だった。
- ・ジンバブエについて全くわからなかったけど、今回の話をきいてどんな国か分かった。もっとジンバブエについて知りたい。
- ・今日の授業でジンバブエの基本的なことが分かったので良かった。これからもっと色々なことが知りたい。
- ・想像外でした。とても笑顔があって貧しそうに見えなかった。反対に自然と一緒に暮らせていな。
- ・ジンバブエにちょっと行ってみたい。会ってみたい。
- ・思っていた以上に別世界だった。でも、人はココ（日本）の人より人ができているのでは？事件なんてないのでは？殺人はないだろう。そう思った。私にとっては全てが未知。
- ・話を聞いているととてもかわいそうだと思った。けど、写真を見ると、明るくてみんな笑顔だった。

### ※生徒の様子

必要に応じてメモをとるようにと伝えて話を進めたが、とても熱心にメモをとっている姿に正直

驚いた。全ての話が新鮮で、自分たちの想像と違ってることが多かったらしく（もしくは想像以上だったらしく）終始驚いていた。特に平均寿命に関しては驚いていた。また「どうしてそんなに長く生きられないのか」など「なぜ」「どうして」ということも考えるようになったようだ。

### ※所感、今後の課題

日本と比較しながら全ての話を進めたのは良かったと思う。生徒にとって、改めて日本についても知る機会となったようだ。生徒の感想はそれぞれだが、「かわいそう」「貧しいのに笑顔が素敵」などの意見は多く、いわゆる発展途上国に対するよくあるイメージを持った、にとどまった生徒が多かったようだ。また「ジンバブエのためにできることがもしあるとしたら何か」、という問いかけをしてみたところほとんどの生徒が、迷うことなくやはり「募金」と答えた。今後「本当に募金なのだろうか」と生徒自ら疑問を持ち考えられるような授業を展開していきたい。

### < 3時限目 >

※生徒が書いた授業の感想は以下の通り。（一部を抜粋）

① ジンバブエについて「前回までの考えが変わったこと」や「イメージと違うな」と思ったことはありますか？

- ・すごい皆楽しそうで、前まではなんか皆すごいなあーと思っていたけど、今は全然違う意味？なんか頑張っていてすごいなあーと思った。
- ・今までは太陽がキラキラ差していてずっと暑い国だと思っていたけど、意外に寒いっていうことも聞いてびっくりした。
- ・前は日本に比べて貧しい国だなと思ったけど、貧富の差がここまであるとは思わなかった。○×ゲームで意外と日本とも貿易してるんだなと思った。
- ・首都には高いビルなどがあってイメージと違った。
- ・私が思っていた“ジンバブエ”よりなんか豊かな？と思った。
- ・貧しい人ばかりだと思っていたけど、お金持ちの人もいるんだと分かった。
- ・貧しい国だと思っていたけど、東京のような町や世界遺産にもなるような素晴らしい滝があって、とても素晴らしい国だと思った。
- ・日本の歌を知っているということにびっくりした。
- ・日本とも交流があるんだと知った。
- ・ジンバブエの人達にも「暮らし」があるんだと思った。
- ・学校に行けるこども達が多いということ。（今まではほとんど行けないと思っていた。）でもお金があるかで、小学校から私立と公立に分かれるなんてかわいそう。

② 授業の感想

- ・とても楽しそうでダンスを踊っているのをみると、こっちまでノリノリになりそうだった。一緒に踊りたいと思う。本当に上手だった。一緒に踊るだけで仲良くなれそう。ビデオを見ていい気分になった。元気になった。
- ・前の授業よりももっとジンバブエについて分かりました。写真などで食べている物や住んでいる所も分かりました。

- ・日本と近い部分や違う部分があってびっくりしました。あんなに首都と他の場所での生活の差が激しいのはどうしてだろうと思った。でもみんな楽しそうだし、空気がよさそうだった。
- ・お風呂がバケツ一個分の水で、僕もお風呂に入るときは少し水を抑えようかなと思った。
- ・先生がホームステイをした家の家族とお手伝いさんとの暮らしの差にとっても驚いた。
- ・クイズで楽しくて色々な知識が分かって良かった。ダンスができて結構明るい感じだなと思って。私もジンバブエに行ってみたいなー。

### ※生徒の様子

各自が前回までの授業で得た知識を多めに活用し、グループで積極的に話し合いながら彼らなりの答を出していた。生徒が一番驚いていたのは「ビルが建ち並ぶ首都の風景」や「貧富の差」。今までほとんどの生徒が「ジンバブエ=発展途上国=国民全てが貧しい」というイメージを持っていたということだ。

また「日本のバスが走っている写真」や「日本の歌を歌う子ども達の様子（ビデオ）」にも驚いていた。「なぜ？ どうして？」と関心を持った様子だったので、日本とジンバブエ間の貿易についてや青年海外協力隊に代表されるような交流についての話をしたところ、親近感がわいたようだった。またビクトリアフォールズのようなすばらしい自然もあると知り、その結果「かわいそうな国」ではなく「素晴らしい国」なんだという感想も多かった。

### ※所感、今後の課題

生徒は自分が持っていた今までのイメージと違うことにも気付いたようだった。今では「かわいそう」「助けてあげたい」などの声が圧倒的に多かったが、今回の授業では「楽しそう」「自分たちよりすごい」と思える一面も見つけられたようだ。また「ジンバブエに行ってみたい」「いい国」という声も聞かれ嬉しかった。実際の生活や子ども達の様子を写真やビデオで見せたことで、以前よりも近く存在として感じることはできたのではないかと思う。また日本との関わり合いにも触れたことで、遠く存在ではなく、同じ世界の人間、自分たちと同じように「暮らし」がある、と感じてくれたのではないかと思う。

### < 4時限目 >

※学年集会での話の概要は以下の通り。

#### ①ジンバブエの概要について

- ・地理、面積、人口について。
- ・世界約 190 カ国のうち、が産業や技術の発達が遅れた国（開発途上国という）はいくつか？  
→150 カ国。ジンバブエもそのひとつ。
- ・平均寿命（37 歳、世界ワースト 3 位）・・・日本（82 歳 世界 1 位）
- ・HIV エイズ感染率（25% 世界ワースト 4 位）

#### ②ジンバブエの実際の生活について

- ・7 割～8 割の人たちが電気ガスの無い生活を送っている
- ・貧富の差

③欲しいもの、大切なものは何ですか？

・みんなが今ほしいものは何ですか？→生徒にもアンケートをとる。

チェルトンボ高校の生徒達は 1位・・・健康、 2位・・・パソコン、食べ物

・みんなにとって一番大切なものは何ですか？→生徒にもアンケートをとる。

チェルトンボ高校の生徒達は 1位・・・教育（圧倒的多数 40人以上が答えた）

・「教育」と答えた主な理由は、きちんとした教育なしでは生きていけない。教育はすべての基本で教育をしっかり受けなければ夢だって叶わない。お金も手に入らない。

④そんな彼らが一番行きたいと言った国は・・・【日本】！！

⑤さて、世界に目をむけてみよう！

（クイズ形式にして生徒に挙手させる。答は3択。正解は\_\_\_\_\_）

◎学校にいけない子ども

130万人or 1300万人or 1億3000万人（日本の人口とほぼ同じ）＝5人に1人（1クラス+7人ぐらい） →実感してもらうために、該当する人数に実際に起立してもらう。

◎安全な水「病気のおそれもなく、安心して飲める清潔な水」が手に入らず困っている人

100人に1人or 50人に1人 or 5人に1人 4人に1人（1クラス+女子全員分ぐらい） →実感してもらうために、該当する人数に実際に起立してもらう。

◎5歳になるまえに死んでしまう子ども

貧しい国だと1000人のうち200人以上の国もある。（5人に1人）  
ジンバブエだと90人。

⑥私たちにできることがあるとしたら、一体何だろうか。

寄付だろうか？

「*donation*は必ずしも彼らを助けない」の言葉のエピソードを紹介。

⑦しめくくりのことば

- ・興味を持ってくれる人がいれぱうれしい。
- ・これはジンバブエのほんの一部の姿であること。
- ・美しい自然、夜空、ビクトリアフォールズ

※生徒が書いた授業の感想は以下の通り。（一部を抜粋）

- ・大切なものでも「教育」だといったときは、驚きました。私たちは普段学校にきていて、「これが普通なんだ」と思ってしまうようになり、行けない人々のことを考えなくてはならないと思いました。
- ・外国でどこに行きたいか聞いたとき、アメリカなどというかと思ったが「日本」と言ったと聞



いて、びっくりした。

- ・今まで思っていたことが「(事実と)ほとんど合ってる」と思っていたのに、今日先生の話聞いて本当にびっくりしたし、ショックだった。
- ・私は今まで募金をすれば助けられると思い、自分で満足していました。でももっと世界の事を知らなければならぬのです。
- ・もっと他の国のことを知り理解しようと思います。そしていつか私の夢(バレリーナ)が叶ったら、貧しい子ども達を感動させたいです。
- ・僕たちは小さな事で文句なんか言ってられないと思った。
- ・まず最初に思ったのは、となりの男子が「関係ない」や「いい子ぶってる」などと言っていたのが聞こえてとても腹が立ちました。私はその隣の人とは正反対のことを思ったり、考えました。とくに「どうでもいい」「関係ない」なんて全く考えませんでした。同じ地球に住んでいる同じ人間の子供なのに関係ない事はないと思います。
- ・僕は一度も外国に行ったことはありません。なので外国人の生活を見たことがテレビでしかありませんでした。しかし先生が言っていたことを聞いてすごく残念に思いました。僕たちにできることはわずかでささいなことだけど、彼らは僕たちが思っている以上に頑張っていたので自分は自分なりに頑張っていきたい。
- ・ジンバブエの学校の子ども達が声をそろえて「行きたい国は JAPAN!」と言ってくれたのは本当に嬉しかった。技術や経済が発達している日本をこれからも持続させたいなあと思った。
- ・“募金”の話聞いたとき、“じゃ私は何ができるのかな”と少しだけ考えました。答は出せなかったけど、いずれ答が出ると思います。とにかくまずいろいろなことを考えさせられました。エイズをなくす方法はないのでしょうか。なんかもう考えすぎて頭が痛い、...
- ・先生の話聞いて、本当にジンバブエの人達に協力するには何をすればいいのか分からなくなりました。
- ・自分にできることは募金だけだと思ったけど、もっと知ることが大切なんだなあと感じました。だからもっとジンバブエについて知りたい。

### ※生徒の様子

大切なものを聞いたところ「家族」と答える生徒が最も多く、「教育」と答えた生徒は数名だった。また欲しい物を聞いたところ意見は分かれたものの「健康」と答えた生徒はほんの数名だった。自分たちとジンバブエの生徒の回答の違いを聞いてとても驚いていた。また「行きたい国はどこだと答えたと思うか」という問いかけに対して「アメリカ」と答えた生徒が多く、「日本」という答はなかなか出てこなかった。意外だったようだ。

### ※所感、今後の課題

学年全員の生徒の感想に目を通したが、すでに数回の授業を受けている1年4組の生徒は、他クラスの生徒に比べ圧倒的に深く考えているのが分かった。「何をしたらいいのか分からなくなった」「頭が痛くなってきた」という感想はどれも4組の生徒のものだ。深く考えることができたからこそ出てきた正直な感想だと思う。そこまで考えてくれた生徒がいたことに喜びを感じた。

ただ、特に4組以外の生徒から「募金はジンバブエの人達を苦しめていた」「募金はいけないことだと知らなかった」などと書いた感想も寄せられ、誤った認識を与えてしまったようだ。実は話

をする前からもしかしたらこのような誤解を招くのではないかと心配ではあったので細心の注意を払い「あくまでも募金はいいことである」という視点にたち話を進めたつもりだった。が、結果を見るとそれでも言葉が足らなかったのだと思う。また4組の生徒に比べると事前の知識がまだまだ不足していたのも原因の一つだと思う。こちらから情報を与えるだけの授業ではなく、生徒自身が「なぜ?」「どうして?」と考える授業や「そうだったのか!」と気付くような授業をじっくりと丁寧に展開していくことの必要性を改めて感じた。

### < 5時限目 > < 6時限目 >

#### ※生徒の様子

自分が書いた質問に対して実際にジンバブエの生徒が答えてくれたことが嬉しかったようだ。回答を返却されるのを以前より待っていた生徒も多く、いつ返されるのかと催促されていたが、一人一人に回答を返却すると大変嬉しそうに友達と回答を見比べていた。辞書を片手に「読めない」「わからない」と言いながらも和訳に奮闘し、特に回答を書いてくれたジンバブエの生徒の名前が気になったようで「この名前はなんて読むのか?」という質問が多く、名前の読み方が分かると急に親近感を持ったようだった。

#### ※所感、今後の課題

生徒が寄せた質問は実にバラエティーにとんでいたので、チェルトンボ高校の生徒の回答は私自身にとっても興味深いものだった。また逆にチェルトンボ高校の生徒が1年4組に寄せた質問も非常に多かった。確かにこのようなやりとりを通じて、距離はぐんと縮んだようであった。

ただ1年4組の生徒にとっては「和訳すること」が大きな壁になったようで、和訳そのものに夢中になり果たして内容にどんな感想を持ったのかということろまでは聞き出すことができなかったのが反省点である。

#### ※※※実践授業全体を終えて今後の課題※※※

改善点や反省点はあるが、目的としていたことは生徒に伝えることができたのではないかと感じている。ただ授業を進めながら自分の中に戸惑いとしてあったものは「私自身も決してジンバブエの全てを見てきたわけではない」という気持ちだった。生徒には「これがすべてのジンバブエの姿」と誤解されないように注意を払ったつもりだが、どうしても子供の立場からすると話の内容も彼らにとって驚くことが多かっただけに「ジンバブエという国のすべての姿」として印象に残ってしまうようだ。これにより、かえって生徒に偏った認識を与えてしまう可能性もあるわけで、自分の責任の重さを感じるとともに事実を伝えることの難しさを感じた。しかし、だからこそ今後も私自身さらに見聞を広め開発教育についても学習を進めていきたいと思う。